

●伝統的「宗族」が人為的に再構築される華人・中国周辺社会。その底流にある、血縁の「イデオロギー」を、漢族社会はもちろん韓国・ベトナムの事例を通して考察。

《血縁》の再構築

東アジアにおける父系出自と同姓結合

新装再版

吉原和男・鈴木正宗・末成道男編

- まえがき
- 「血縁」の再構築
——同姓団体の生成とその社会的機能
(吉原和男)
- 中国における宗族の伝統
(井上 徹)
- 危機状況下の同族集団
——浙江省の同姓村における細菌戦被害を通して
(上田 信)
- 人間関係の構築にみる台湾同姓団体の機能(上水流久彦)
- 韓国の都市化の展開に伴う同姓結合の生成と変容
(魯 富子)
- ケンダン・父系・『地縁』
——『民族』の再構築プロセス
(原尻英樹)
- 歴史人類学から見た韓国の親族結合
(嶋 陸奥彦)
- ベトナム北部の父系出自・外族・同姓結合
(宮沢千尋)
- 一九世紀一二〇世紀初頭北部ベトナム村落における
族結合再編
(嶋尾 稔)
- コメント
- 「再構築」の底流
——東アジアの連続的变化の中で
(瀬川昌久)
- 「制度」としての血縁
——比較の視点から理論的考察へ
(園田茂人)
- 経済発展と同姓結合——韓国社会を中心に
(服部民夫)
- 父系血縁原理をめぐる現代の脈絡
——韓国社会をめぐって
(伊藤亞人)
- 都市における同姓集団の運動と機能
——都市人類学の視点から
(和崎春日)

同姓団体は任意加入の社会組織で、人口の国際移動に伴って、都市社会において結成されたと考えられる。この組織のモデルは、移民や移動した人々の元の出身地に既に存在した親族組織であり、それを新しい環境である都市で生かしつつ換骨奪胎して再編成したというのが本書の基本的見解である。その視点は、人間の移動と適応による社会の再編成や人間関係の再構築に関心があり、都市という場における社会の在り方、移住・移民という流動的な人間の生き方に焦点を当てている。

さて、「同姓団体」の根本原理は、遡れば中国の漢族の伝統社会における父系出自原理に基づく「同姓結合」に求められ、宗族に代表される家族・親族主体の血縁集団に典型的に見いだされる。しかし、「同姓団体」は、いわゆる閉鎖的な血縁や地縁による社会集団ではなく、同姓者の任意加入によるボランティア・アンシェーションであり、ネットワークを形成する流動的な社会関係が特徴である。従って、現代のように、急激に経済・社会・文化が変動し、極めて流動化している社会においてもしたたかに活動している。むしろ、グローバル化・インターネットの中で活動をより活発化して新しい人間関係を作り出す核になっているとさえ言える。 (まえがきより)

体裁 定価
・A5判・並製・カバー
・三六〇頁
・三一五〇円
(本体三〇〇〇円)

(田村克己編)

総合討論
あとがき 索引

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一-14 九
電話〇三(三)八二八)九二四九
http://www.fukyo.co.jp

注 文 書	
流通センター取扱品	
発売	風響社 TEL: 03-3828-9249
税込み	三一五〇円
部	

吉原和男・鈴木正宗・末成道男編
《血縁》の再構築
東アジアにおける父系出自と同姓結合

ISBN4-89489-028-3 C3039 ¥3000E

〔お客様控え〕

ご氏名
ご住所
お電話

月 日